

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870500410		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホームひまわり	ユニット名(西棟)	
所在地	茨城県石岡市東府中1-10		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 28 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 1 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870500410-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスミとビル4階
訪問調査日	令和4年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前中は歩行・軽い体操午後は体操と歌を毎日行い、「コグニサイズ」を取り入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から近い場所に位置し、近くに病院やコンビニ等があり、利用者が気分転換に散歩や買い物に出掛けることができる立地条件の良い場所にある。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、職員会議での話し合いから、利用者の下肢筋力低下防止の為に「認知症予防運動コグニサイズ」を取り入れ、利用者の残存機能を活かした生活ができるよう支援している。医療法人美野里病院を母体とし、お互いに連携を図っている。病院外来受診や定期的な訪問診療、週1回の看護師の来訪があるとともに24時間365日医療サポート体制を構築し、利用者や家族等にとって安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの事業所独自の理念を職員で考え全員が共有して実践につなげている	理念を各ユニットに掲示するとともに、職員のネームの裏にも入れていつでも確認できるようにしている。自分の親を介護するつもりで接するようにと管理者が職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中出かける機会も難しく日常的な交流は出来ていない状況になっています	コロナ禍の為、ボランティア受け入れなど、これまで行っていた交流は難しくなっているが、地域住民とは窓際から手を振って挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は研修会を通し、認知症の新たな発見・理解する事で地域の方の支援を活かしていたがコロナ禍で研修が出来ない為今までの研修等を振り返り認知症ケアの啓発に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では2ヶ月に1回行われている 事業所の取り組みを報告し出席者の意見や要望を聞き、サービスに向上に活かしている	昨年は状況を見て開催していたが今年は書面での開催となっている。利用者の状況報告等を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	折りに触れ、社会福祉課の担当者や包括支援センターなどと連携を取り、協力関係を築くよう取り組んでいます	包括支援センター等からの相談や問い合わせに対応したり、介護保険更新時に市役所の窓口に向いて担当者といつでも話しており、協力関係もできている。市主催の地域密着型会議にオンラインで参加し連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が拘束の有無を理解し、日々の介護の中で拘束のないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催している。職員一人ひとりが意識を持って虐待防止について理解をし、日々の支援に取り組んでいる。マニュアルを作成し、年2回研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止を学ぶ機会を持ち、事業者内でも小さいことでも冷静に受け止め、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者や家族が必要とした時は、それに活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、納得頂けるよう説明を行い理解が得られた時点で契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が電話や面会に来られた時、意見・要望を聞く機会もあり、参考にし運営に反映している	家族等の面会時に意見や要望を聴く機会を設けているとともに玄関先の見やすい場所に苦情受付相談の案内を掲示をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士常に話しあい、意見を出し合い職場の反映に努めている	ミーティング時や月1回のカンファレンスで意見交換をしている。シフトの希望を聴いたり、物品の購入については管理者が即対応してくれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善に努め一人ひとりが健康管理をし、向上心を持って働けるよう取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修会等に出席し知識や力量を把握し、質の向上に努めていたがコロナ禍の為研修ができていない ZOOMの研修も考慮していく		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所や同業者との交流を持ちサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話を良く聞き、困っている事、不安の声に耳を傾け安心できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族とは、不安・要望を聞きどのような対応ができるか話しあいをし関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思い状況等を会話の中で見極め、サービス対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員がコミュニケーションを取り、共感・理解しあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の様子を報告し、情報を共有することで支えていく為の協力関係を築くよう努めているがコロナ禍の為できていない電話でまめに連絡とるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来所された時、居室でお茶を飲みながら楽しく会話ができるよう支援しているが今は御遠慮していただいている	入居時に利用者や家族等から聞き取りをおこなったり、日々の会話からも 把握して職員間で共有している。友人に買い物頼む等の交流を図ったり、野菜が利用者家族から届く等馴染みの関係が継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況に合わせて共同作業・遊びりテーション等お行い楽しく過ごせるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他施設に移動や退所後も立ち寄り必要に応じ支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に関わり言葉にできない思いなどを行動・表情から把握できるよう努めている	入居時に聞き取りで得た情報を記録に残し、日々のケアの中でも知り得たことは職員間で共有することになっている。利用者の表情を見逃さないようにしたり、難聴の方は、筆談で聞くようにもしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴・サービス利用の経過などを把握し、その人らしく生活できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態を全員で把握し過ごしやすいよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを聞き、生活しやすいよう介護計画を作成している	家族等や本人の意向を聞き、医師や看護師にも意見を聞いて作成している。チェックポイントシートを作成し、3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。要望や退院など状態に変化があれば、随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・状態変化を記録し、職員間で共有し計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮せるよう地域包括支援センターや地域の人の力を借り、情報交換・協力関係を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回から2回外来受診し、6か月の1回定期健診を受診している。毎月訪問診療も行っていきます。家族の希望や体調に合わせて他医療機関を受診出来るよう支援している(例 皮膚科等)	母体が医療法人の為、毎週木曜日に外来受診、定期的に1か月に1回訪問診療、看護師が週1回来訪し、利用者の健康状態を観察している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気づいた事や体調の変化を訪問の医師や看護師に相談し適切な受診がうけられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には安心して治療を受け早期退院できるよう病院関係者との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時や終末期について家族等と十分な話し合いを持ち、関係者と共に支援している	看取りは行わず、重度化やターミナルケアに関する説明を行い、同意書を得ている。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え職員全員が初期対応訓練を定期的実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し避難経路を利用者が確認できる方法で学び身に付けて災害に備えている	夜間想定を含む避難訓練を行い、訓練後は反省会を行って次回に向けた課題について話し合っている。災害に備えて一覧表を作成して備蓄品を管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の人格を尊重し、一人ひとりの思いを損ねない言葉かけに気を付けて対応している	利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。人権尊重や守秘義務について契約書に明記し、同意書をもっているが、研修を行うまでには至っていない。	人権尊重や守秘義務についてマニュアルを作成し、研修会の実施を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思い・希望を自己決定できるよう支援している 自分の思いが表現できない方にはそのつどの表情を見逃さないようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の流れの中、利用者のペースに合わせた対応を心がけ希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみやおしゃれを楽しめるよう、好みを良く聞き満足していただけるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員で摂る食事を楽しみになるよう工夫し関心が持てるよう支援している	食材の配食サービスを利用し、調理担当職員が調理している。利用者はそれぞれできることを職員と一緒にやっている。静かな音楽を流し、職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量・水分量を把握し、状態にあわせた支援を心がけている。食事を残される方はほとんどいないので、体調変化にすぐ気づきやすい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあつた口腔ケアを見守りし、難しい利用者には介助で行っている 入れ歯洗浄剤は毎日使用して清潔に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を元に自立されている方には、見守りにて排泄確認を行い、難しく訴えのできない方は声かけにて誘導介助すると共に自主できるよう支援している	排泄チェック表を参考に利用者の状況に合わせたトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表をチェックし、水分量の確保や軽い運動への働きかけに取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと自分のペースで入浴でき利用者が嫌がらず気持ち良く入れるよう、着脱介助を行っている	利用者の希望に合わせていつでも入れるように支援している。足浴や清拭にも対応し、入浴を拒む利用者には無理強いないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握しゆっくりと眠れるよう努めている 一人ひとり眠りにつきタイミングが違う為、その方にあわせて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会などに参加をし、利用者様の薬を把握理解し、服薬の支援と症状に対応できるようにしている（多職種連携在宅介護事業集合研修会等）多職種同士の顔の見える関係づくりの一環に繋がっているが今はできていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が楽しみながら参加できる余暇活動を支援している 一番の楽しみはカラオケのボランティアが来所してくれる事でしたがコロナで中止になっている為ゆうせんで楽しんでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出・外泊を楽しまれ、天気の良い日は、近所に散歩に出かけていることが以前は出来たが今は出来ない。	隣接する病院の遊歩道を車椅子の利用者も一緒に散歩している。以前は、市のバスやタクシーを利用して買い物や外食等の外出支援を行っていた。受診時、早めに病院へ向かって車窓から桜を楽しむなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の依頼がある場合は預かり金の中から希望の物を購入して頂いている。その時には家族の居る方には確認をとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などは投函できるように支援している。電話で家族と話しがしたい方は施設の電話で直接会話ができるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい配置にし、馴染みの物を置き季節感を採り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫している	廊下が広く手すりも設置されている。食堂兼居間は、小上がりの畳のスペースに長椅子が設置されており利用者がのんびりと過ごすことが出来る。季節感のある飾り付けがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビや会話を楽しみ居室で自分の時間を過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物や馴染みの物を置き安心して過ごせるよう工夫している	居室にはエアコンやベッド、洗面台、整理筆等が備え付けられている。管理者は自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらえるよう話をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全を考え建物内の環境づくりに工夫をし、自立生活が送れるようにしている		

(別紙4(2))

目標達成計画

所名 グループホーム ひまわり

作成日 令和 5 年 1月 13 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	人権尊重や守秘義務についてマニュアルを作成し、研修会の実施を期待する。	ひとり一人もう一度確認しファイルを作成する。	マニュアルは作成してあるがもう一度確認しファイルにする。又、研修会はコロナが落ち着いたら実施したい。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。